

プログラム10

鳥の声に耳をすまそう！（環境保全活動）

目的

- ・ 春から夏にかけて聞かれる「さえずり」について知る。
- ・ 自然に親しむために野外へ出かけていくきっかけとする。
- ・ 野外へ出たときに、生物をいたわるマナーを身に付け、自然を保全する気持ちを育てる。

概要

春から夏にかけてきかれる「さえずり」の意味を知り、録音された身近な鳥ウグイス・ホオジロ・メジロ3種の「さえずり」を既存の「聞きなし」（鳥の声を人間の言葉に置き換えること）で聞いてみる。次にオリジナルの「聞きなし」を作り、自然の中へ出かけるきっかけとする。また「さえずり」がきかれる繁殖期（子育て）の注意点を知ったり考えたりすることにより、生物をいたわり、生物と共生していくためのマナーを考える。

対象

小学生から大人まで（人数は10名程度以上）



実施時期

いつでも実施可能。実際にさえずりが聞ける時期とすれば春期～夏期（2～6月ごろ）。

所要時間

1時間程度

準備物

<「聞きなし」作り～学習>

- ・ 鳥（ウグイス・ホオジロ・メジロ）の声の入っているCDまたはテープ
（財）日本野鳥の会（http://www.wbsj.org/birdshop/original_goods.html）のCDなどを購入するとよい。
「ことりのさえずり」HP（<http://midopika.cool.ne.jp/>）からも試聴ができる。
図書館などでもCD等を貸し出ししている場合がある。
- ・ ラジカセ（CDまたはテープの再生機）

- ・ 資料「春だ！鳥の声に耳をすまそう！」（参加者分）
- ・ 筆記用具（参加者数分）
- ・ 鳥の図鑑（ウグイス・ホオジロ・メジロの載っている図鑑）
写真が大きく載っているものがよい。

<振り返り>

- ・ 振り返りシート（参加者数分）



内容

<「聞きなし」作り>

- ・ 資料「春だ！鳥の声に耳をすまそう！」を読み、鳥の「さえずり」について参加者に説明する。
- ・ 参加者は、鳥3種の「さえずり」をCDなどで聞き、図鑑で鳥を確認しながら既存の「聞きなし」を口に出して試してみる。
- ・ さらに、CDの「さえずり」を何度も聞きながら、参加者各自がオリジナルの「聞きなし」を、それぞれの鳥について1つずつ作ってみる。
- ・ みんなで、自作の「聞きなし」を発表し、鑑賞しあう。

<鳥との関わりについての学習>

- ・ 野外で「さえずり」が聞こえるということは、その季節がその鳥の繁殖期であり、自分が「子育てのなわばり内にいる」ということを意味している。鳥が「どんな気持ち」か、また自分は「どんな行動」をとったらいいか、みんなで話し合ってみる。
- ・ 地面に落ちている鳥のヒナを見つけてもむやみに拾ってはいけないことも、あわせて確認する。これは「巣立ち直後のヒナの可能性が高く、その後親鳥がエサを与えたり、誘導するうちに飛べるようになる」「近くに親鳥がいるはずで拾って連れ去れば「誘拐」とおなじことになる（親鳥は警戒して近づけない）」「基本的に人間は親鳥になれない（その鳥にとって危険なものやエサの取り方を教えることはできない）」などが大きな理由であり、(財)日本野鳥の会と(財)日本鳥類保護連盟では、毎年春に「ひなを拾わないでキャンペーン」(環境省後援)を実施している。

<振り返り>

- ・ 今日の活動で気付いたことなどを、各自で振り返りシートに記入する。
- ・ 感想や今日からやろうと決めたことなどを、みんなで発表しあう。

安全対策や配慮事項

- ・ 実施時間が長い場合は適宜休憩をとり、お茶やお菓子でコミュニケーションをとるのもよい。

展開や応用

- ・ 今回取り上げた 3 種は比較的身近に生息している種であり、プログラム終了後、実際に近くの公園や林などへ行き、声を探してみることはより効果的である。そして、その際に生息環境などを観察・確認し、他の生物の生息環境を守るために自分たちができること（あるいは、してはいけないこと）を考えることも大切な視点である。
- ・ 後日、どこかで実際にさえずりが聞けたら報告してもらってもよい。個体による鳴き方の違いもあるので、聞きなしのバリエーションを作ってもよい。
- ・ 他の鳥についても行うことができる。例えば、春に日本へ繁殖のために渡ってくる「夏鳥」については、繁殖地である日本の環境だけでなく、越冬地となる南の国の環境も一緒に守られなければ、生息できないことなどについて触れることもできる。ツバメについては比較的身近で巣を見ることができるので、その時のマナーについても考えてみる。



聞きなし例) ツバメ：「土喰って、虫喰って、渋ーい」

ホトトギス：「特許許可局」

- ・ 「ひなを見つけても拾わないようにする」 ことについてより詳しく調べてみることも、自然のしくみを知りマナーを考える上で大切なことである。

参考：(財) 日本野鳥の会 HP (<http://www.wbsj.org/birdwatching/>)

(財) 日本鳥類保護連盟 HP (<http://www.ispb.org/>)

プログラム提供団体

団体名・担当者名 サンコファ・ネイチャーリサーチ 朝比奈裕子 (あさひな ゆうこ)

住所 富山市吉作117 大栄ハイツ3-206

電話番号 076-434-0985

電子メール keh00171@nifty.com

ホームページ なし

団体の概要 1997年発足。自然・環境・国際のテーマを中心に、環境保全を目的とした「自然をよく知る」ための「野外活動」や、世界や環境の問題解決に向けて「自ら考え・行動する人」を育てるための「ワークショップ(参加体験型学習)」や「おはなし会」などの講師派遣を行っている。

野外活動：自然観察・バードウォッチング・アニマルトラッキング・ごみ探検

ワークショップ：バナナ・パームオイル・熱帯林と私たちの生活について。

工作：自然素材を集めて作ってみよう(リース・かご等)・足跡スタンプ作り。

おはなし会：アフリカの人たちと暮らして・フェアトレードって何 等々。